

真庭市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定

里山資本主義真庭 未来への挑戦

2008年に始まった日本の人口減少は今まで以上に進行し、2040年には約1億800万人となり、その後毎年100万人ずつ減少していくという推計が出されています。

人口減少、地方消滅

そんな言葉が話題になり、消費や労働力の低下などが懸念されることから、政府は平成26年12月に人口確保の長期ビジョンと「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定。5カ年の国全体の戦略を示し、「地方創生」に向けて動き出しました。これを受けて、地方自治体もそれぞれの人口ビジョンと総合戦略の策定を進めています。今回は、真庭市が今年度策定した「真庭市まち・ひと・しごと創生総合戦略」について紹介します。

真庭市の人口は 4割減と推計されています ～2040年には約32,000人に～

国立社会保障・人口問題研究所（以下、社人研）の推計では、2040年の真庭市の総人口は、現在から約4割減の約32,000人になると予測されています。「生産年齢人口の減少」による地域経済規模の縮小、「高齢人口の増加」による社会保障費の増大、さらには人口減少に伴う地方交付税の減少などを招くと考えられています。

人口ビジョン 真庭市の人口を見通す

真庭市の将来を描くための基礎となるのが人口です。その現状を見て、真庭市の目指すべき人口について考えてみましょう。

自然減と社会減(転出超過)が続く
死亡数が出生数を上回る「自然減」は、人口減少の大きな要因と考えられます。真庭市の合計特殊出生率(以下、出生率)は、全国や岡山県と比べて高めとはいえ減少傾向で、死亡数との差は開いているのが現状です。一方、社会動態では、進学や就職時の転出と、Uターンなどによる転入が真庭市の特徴となっています。しかしながら、10代後半から20代前半での転出が全転出者のうち約32%であるのに対し、20代後半でUターンで帰ってくるのは全転入者のうち約17%と低調で、転出超過

■真庭市の出生率

	真庭市	岡山県
1983～87	2.06～2.24※	1.88
1988～92	2.02～2.18※	1.67
1993～97	1.88～2.16※	1.56
1998～02	1.76～2.05※	1.5
2003～07	1.75	1.42
2008～12	1.73	1.49

※合併前の各地区の最低と最高
出典：岡山県「人口動態保健所・市区町村別統計」

■真庭市と県外との人口移動状況 (2012～2013年の2年間の合計) 単位：人

	転入	転出	流出入
島根県	39	27	12 流入
大阪府	161	153	8
兵庫県	111	103	8
徳島県	13	6	7
群馬県	9	2	7
：			
鳥取県	71	83	-12
京都府	34	46	-12
広島県	54	77	-23
東京都	55	78	-23
山口県	9	37	-28 流出

出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

2040年の人口を3万4千人に
今後、地域の活力を維持・成長させていくためには、人口構造バランスを保っていくことが必要です。そこで、真庭市では現状を詳しく分析し、将来人口のあり方をまとめました。出生率の上昇と若者や子育て世代の転入促進・転出抑制を進めることで人口減少を緩やかにし、2040年の人口3万4千人を達成できると見込んでいます。そのための戦略が、今年度策定した「真庭市まち・ひと・しごと創生総合戦略」になります。(4ページ以降で紹介)

の状態を象徴しています。また、雇用・生活環境が充実した地域への転出が続いている一方、関西圏(大阪府・兵庫県)からの転入が超過しているといった実態もあります。

真庭市の目指すべき将来人口のあり方

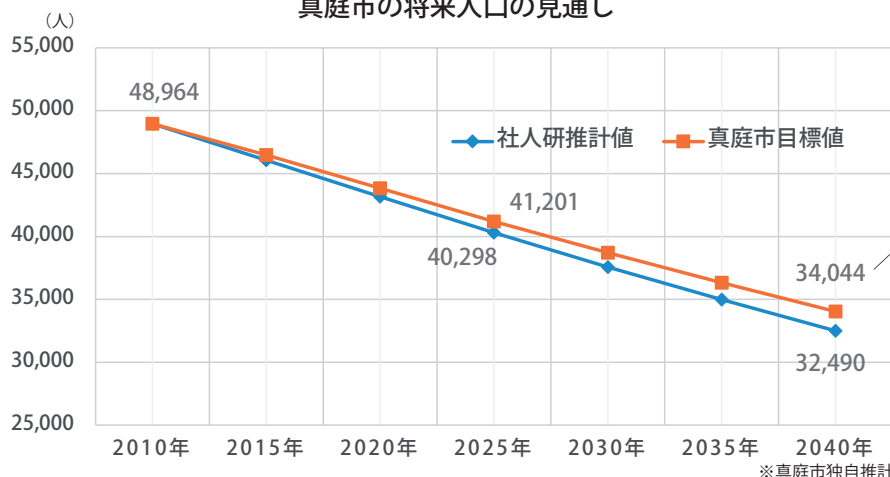
人口構造バランスをほぼ一定とすることによる社会の活性化と持続可能な地域(まち)の実現

人口減少社会の中で、将来にわたって、現役世代が安定して子育てをし、熟年者を支えることのできる人口構造を維持することを目指します。

人口構造バランスの長期的な安定化を目指す

- 年少人口(0～14歳) ▶12%前後
- 生産年齢人口(15～64歳) ▶50%前後
- 高齢人口(65歳～) ▶40%前後
- 出産年齢女性人口(15～49歳) ▶15%前後

真庭市の将来人口の見通し



2040年の人口34,044人 4区分人口構成

年少人口 4,110人	12.1%
生産年齢人口 16,543人	48.6%
生産年齢女性人口 5,050人	14.8%
高齢人口 13,391人	39.3%

真庭市まち・ひと・しごと創生市民会議

市民参加でまちの未来を描く

真庭市の総合戦略はどのようにして作られていったのでしょうか。ここでは、市民参加の場となった「真庭市まち・ひと・しごと創生市民会議」について、その取り組みの様子と参加した人たちの声を紹介します。

4分野のワークショップを開催し市民意見をまとめる

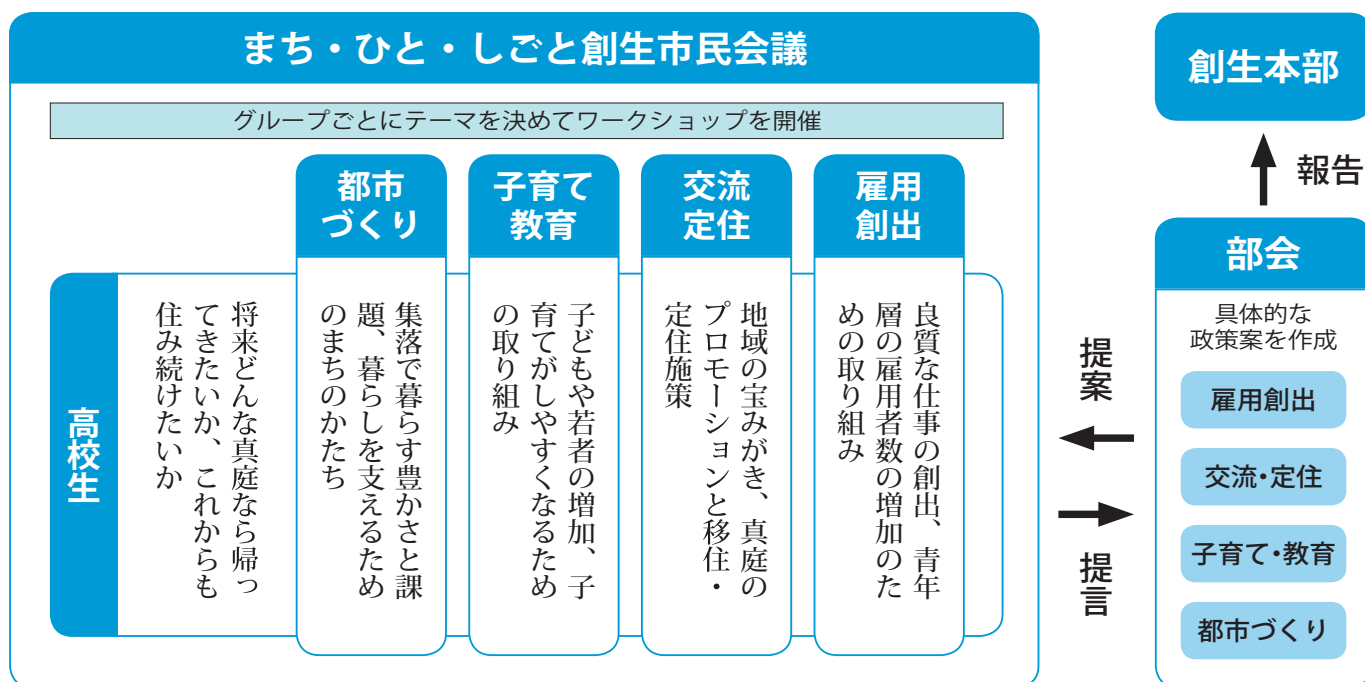
真庭市では、総合戦略の策定に当たって、市民参加の場である「真庭市まち・ひと・しごと創生市民会議」を4月30日に結成。施策のテーマを「雇用創出」「交流・定住」「子育て・教育」「都市づくり」の4つに分け、それぞれ3回のワークショップを5カ月間にわたって開催しました。市からの呼び掛けにさまざまな立場・年齢の人が集まり、高校生も多数参加。別に開かれた高校生の市民会議も含めて、述べ468人がこれからのまちづくりについて、意見を出し合いました。市民会議でまとめられた意見は「提言書」となり、総合戦略の施策に盛り込まれました。



ワークショップではグループごとに意見をまとめ発表

策定プロセス

策定に向けた組織として、1月14日に、市長を本部長とする庁内組織「真庭市まち・ひと・しごと創生本部」を設置。4つの部会で作った具体的な政策案を「市民会議」に提案し、そこでの意見交換・提言を経て総合戦略を策定しました。



※策定にあたっては、市議会への報告、有識者の意見聴取やパブリックコメントなどを経て創生本部で決定しています。

目標の達成に向け推進大会を開催



市民と行政が一体となって総合戦略を推進するため、10月6日に旧遷喬尋常小学校で「まち・ひと・しごと創生推進大会」が開催されました。市民約150人が参加し、総合戦略の内容を確認。市民会議を代表して自営業の池本浩二さんと真庭高校3年の宮本直樹さんが決意表明をしました。



総合戦略の達成に向けて決意表明を発表する池本浩二さん



勝山高校でも「地方創生」
勝山高校では5月27日、総合学習の授業で地方創生を学ぶ授業を実施。市職員が総合戦略の目的や考え方について話しました。



高校生から大人まで幅広い年齢や職種の人が参加し意見を交わしました

市民会議に参加して



ほしの わたる
星野 航さん(勝山)

市民会議は、人の話を聞くだけでなく、意見を気軽に発言できる雰囲気でした。地域をよくしていくためには、そんな場があることが大切なんですよね。市のワークショップにはここ2年ほど参加していますが、人とのつながりもできて、真庭や他の地域の市民活動にも興味を持つようになりました。自分にできることがあれば、積極的にやっていこうと思います。

気軽に発言できる場、それが大切なんじゃないかな



みむら や よい
三村弥生さん(久世)

職場の同僚に背中を押されて参加しました。途中からだったのですが、少し戸惑う面もありましたが、それまで年齢の離れた人と話す機会もあまりなかったので刺激を受けました。自分たちの年代がちょっと少なくて「自分が出て意見を言わなきゃ」と続けて参加しました。これからの時代を担う私たちが、もっと積極的に発言してまちづくりに関わらないといけませんね。

若い人がもっと参加して発言しないと



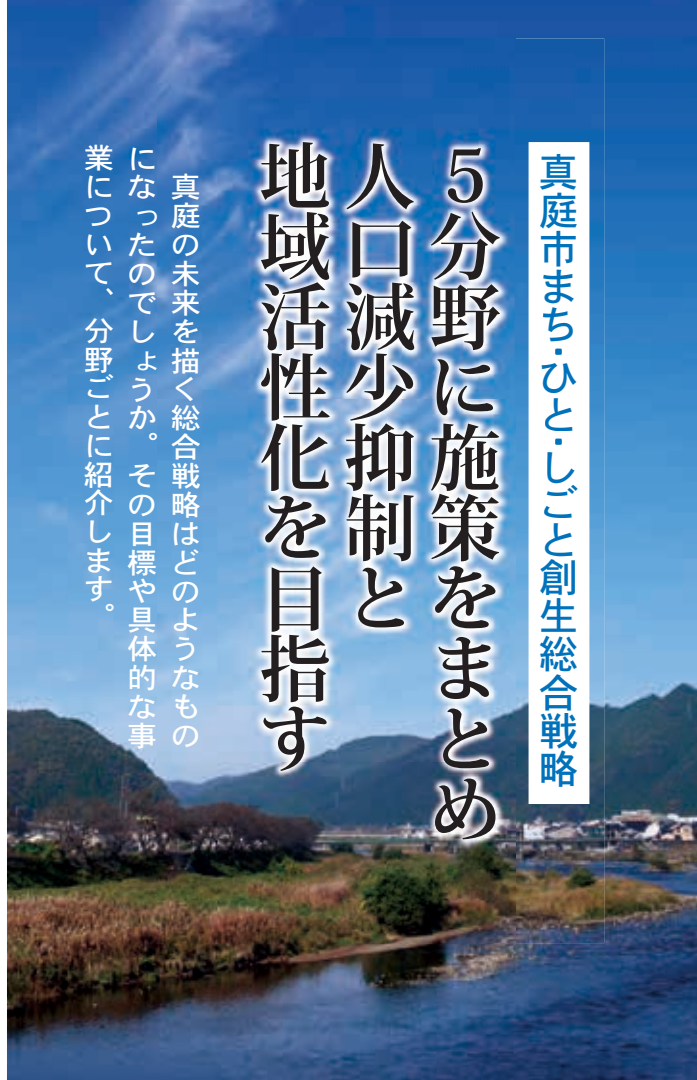
いし い ひろ かず
石井宏和さん(宮地)

いろんな人の意見に触れ、行政がやろうとしていることを肌で感じる事ができ、とても貴重な経験をさせていただきました。まだ知らないことや、改めて認識できることがたくさんありました。市民会議のように、自分の意見や思いを言える機会があれば、また参加してもいいかなと思っています。どうせ住むのなら、楽しくて活気のある真庭であってほしいですから。

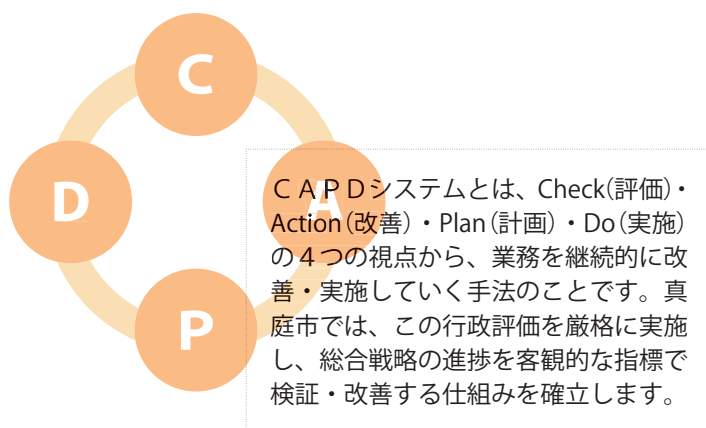
どうせ住むなら楽しくて活気のあるまちに

5分野に施策をまとめ 人口減少抑制と 地域活性化を目指す

真庭の未来を描く総合戦略はどのようなものになったのでしょうか。その目標や具体的な事業について、分野ごとに紹介します。



総合戦略は、第2次真庭市総合計画の考え方や国の地方創生の理念などを勘案した上で、人口減少の抑制と地域活性化に直接的に効果が見込まれる分野に絞り、今後5年間に特に重点的に取り組むべきものとしてまとめました。柱となるのは、市民の皆さんと考えてきた「雇用創出」「交流・定住」「子育て・教育」「都市づくり」に、行政分野の課題の「広域連携」を加えた5分野。それぞれの柱に施策の方向を示して目標を設定し、その目標を達成するための具体的な事業を明確にしています。実施に当たっては、CAPD（行政経営改善サイクル）システムによる評価を実施し、毎年度見直しを行いながら確実な実施を目指します。



施策の方向①

真庭にしごとをつくり、
安心して働けるようにする

具体的な施策と事業

- ▶ 「真庭ライフスタイル」実現のための良質な雇用環境の創出
 - ・ 市内企業魅力発信事業
 - ・ 異業種交流事業(北房) など
- ▶ 「木を使い切る真庭」の創出
 - ・ 地元産木材の需要拡大のためのCLT普及に向けた取り組み
 - ・ 里山真庭の森林づくり推進事業 など
- ▶ 「回る経済」実現のための地域資源を活用した魅力ある「しごと」創出
 - ・ 生ごみ資源化地域産業事業
 - ・ 地域振興組織が行う中和地域の地域振興支援(中和)
 - ・ インバウンド対策事業
 - ・ 農業体験インターンシップ事業(蒜山) など

目標

- ①雇用者数の増: 5年間で200人
- ②うち青年層の雇用者数の増: 5年間で100人



雇用創出

交流・定住

施策の方向②

真庭への新しいひとの流れをつくる

具体的な施策と事業

- ▶ 地域振興事業：地域資源を生かした地域活性化
 - ・ 旧遷喬尋常小学校から商店街へにぎわいを運ぶ事業(久世)
 - ・ 中世式内八社の歴史をつなぐ事業(湯原) など
- ▶ 真庭市売り出し(シティプロモーション)の推進
 - ・ まにぞうとICTを融合したプロモーション事業
 - ・ 「まにわらしさ」のある景観整備の検討 など
- ▶ 真庭市へ「おいでんさい」(市外の人に対する交流・定住促進事業)
 - ・ 都市と農山村をつなぐ相談窓口で悩みがスッキリ事業
 - ・ 女性のための移住相談とフォロー体制をつくる事業
 - ・ 交流定住拠点創出事業(美甘) など

目標

- ① 転入者数：5年間で100人増加 ② 転出者数：5年間で50人減少
- ③ 交流人口：5年間で22,000人増加
- ④ 移住希望者の真庭市認知度：3年間で27%→30%



施策の方向③

若い世代の結婚・出産・子育ての希望と教育・社会福祉を地域で支える仕組みをつくる

具体的な施策と事業

- ▶ 結婚の夢をかなえる(出会い・結婚)
 - ・ ハッピーコンシェルジュ事業
 - ・ いのちふれあい事業 など
- ▶ 安心できる子育て支援
 - ・ まにわ寄り合い事業
 - ・ まにわおせっかい事業
 - ・ 多様な文化交流事業(地域交流事業) など
- ▶ 子どもと大人を応援する教育支援
 - ・ 司書資格取得の支援、図書館の整備(本の香りがするまちづくり)
 - ・ ICT、MITを活用した学習環境づくり事業
 - ・ 芸術アウトリーチ事業 など

目標

- ① 合計特殊出生率：5年後に1.94を達成
- ② 出産年齢女性人口割合：5年後に15.1%を維持



子育て・教育

施策の方向④

時代に合った地域をつくり、
安心な暮らしを守る

具体的な施策と事業

- ▶ だれもが生活しやすい都市づくり(都市基盤・機能向上)
 - ・ 落合中心部の活性化事業(落合)
 - ・ サイクリングロードの整備
 - ・ まにわくん(枝線)に代わる交通手段の活用検討
- ▶ 豊かな暮らしを支える仕組みづくり(制度・人的仕組み)
 - ・ 土砂災害に対する安全な避難所の見直しと体制強化
 - ・ 熟年者がまちを支える仕組みづくり
 - ・ 自転車を活用した健康づくり推進事業

目標

- ① 今後も真庭市に住み続けたい意志がある割合:85%以上
- ② 住民主体の事例(住民会社の設立・運営、拠点づくりなど):5件
- ③ 公共施設・公有土地の有効活用事例:30件
- ④ 市内公共交通への満足度:80%以上



施策の方向⑤

地域と地域を連携する(広域連携の推進)

具体的な施策と事業

- ▶ 地域連携による経済成長
 - ・ 建築構造材等へのCLTの活用促進
 - ・ 異分野異業種交流や製造業事業者間マッチングの実施
 - ・ 外国人観光客もターゲットとする岡山真庭周遊プランと2次交通の整備
- ▶ 地域連携による高次都市機能の集積
 - ・ 岡山市と真庭市を結ぶ主要道路の整備促進
 - ・ 高度医療、医師不足対策
- ▶ 地域連携による生活関連機能サービスの向上
 - ・ ESDと水源の里シンポジウムの取り組みの発展的継承
 - ・ 公共施設の相互利用

目標

- ① 連携中枢都市圏の形成
- ② 地域間連携協約の締結



都市づくり

広域連携

大好きな真庭だから みんなが戻ってきたいまちに

市民会議に欠かさず参加し、推進大会で決意表明を発表するなどし、積極的にまちづくりに関わってきた真庭高校の宮本直樹さん。真庭への思いを語っていただきました。

高校の先生に「行ってみな
いか」と声を掛けられ、市民
会議に参加しました。危機感
というと大げさかもしれませ
んが、小学校のころに友だち
が引越してしまったり、中
学校の統合の話を聞いたりし
ているうちに、少しさみしい
気持ちにはなっていました。
高校に入ってから真庭全体の
ことが見えるようになって
「真庭っていいな、好きだな」
と思うようになりました。

そんな自分にとって、市民
会議はとても有意義な場でし
た。大人の人たちがまちの将
来について熱く語る姿を見
て、自分も少しずつ変わって
いったような気がします。難
しいこともありましたが、人
生の先輩方に支えられ、ワー
クショップの発表もできるよ
うになりました。そしてつい

には、推進大会の決意表明の
大役に。これにはさすがに戸
惑いしましたが、話をいただい
た時には、自分に掛けられて
いる期待を感じとても嬉しか
ったです。決意表明は、市民
会議に参加していなかった友
だちにも協力してもらって、
みんなの思いを込めて全力で
作りました。自分たちで考え
た言葉が少しでも真庭の力に
なればと思っています。

今、僕は自分なりの将来を
見つけ動き出しています。い
ったん真庭を離れますが、戻
ってきてお店を開くのが僕の
夢です。いや、夢じゃなく現
実のこととして考えていま
す。みんなで出したまちづく
りのアイデアが実現して、真
庭が住み続けたいまち、戻っ
てきたいまちであり続けるこ
とを信じています。

真庭高校3年
宮本直樹さん(美甘)